

卵管閉塞について

門別診療所 富里 美緒

新年を迎えお産・種付けシーズンの始まりが迫っているのをひしひしと感じる時期になりました。空胎馬に関しては各種検査を行うなど種付けに向けて準備をされている方もいらっしゃるのではないのでしょうか。そこで今回は受胎に影響を与える卵管閉塞についてご紹介させていただきます。

まず初めに卵管とは、卵巣を出た卵子が最初に通過する細い管であり受精が行われる非常に重要な場所です。しかし、解剖や腹腔鏡を使用した試験の結果、一部の牝馬ではコラーゲン塊によって閉塞が起きていることが報告されています。そして、この卵管閉塞は胚（受精卵が発育したもの）や精子の移動を妨げるため不受胎の要因になると考えられます。これまでに治療法はいくつか報告があり、ミソプロストール製剤を使用した方法や卵管に生理食塩水を注入する方法が多く行われています。ここでは、当組合でも実施しているミソプロストール製剤を使用した方法について詳しくご紹介します。

ミソプロストール製剤は胃潰瘍・十二指腸潰瘍の治療薬としてヒトだけでなくウマでも使用されてきました。さらに、生殖器では卵管を緩め、卵管内での胚の移動を助ける働きがあります。このことか

ら繁殖牝馬を用いた実験が行われ、経口投与では効果はないものの、子宮内に注入することで数年間不受胎だった牝馬が受胎しています。また、子宮や卵管に薬を投与する方法も様々なものが試されており、人工授精用カテーテル、内視鏡などが使用されています。人工授精用カテーテルを使用した方法は他の方法と比べて簡便であり、牧場でも実施可能なことが利点です。一方、内視鏡を使用した方法は卵管の出口をカメラで確認しながら塗布するため精度が高いことが利点です。どちらの方法も長所・短所がありますが、不受胎を繰り返す馬にとって有用な方法だと感じています。

これらのことから卵管閉塞に対する治療はとも期待されていますが、残念ながら生前に確定診断することは難しく、子宮内膜炎等他の不受胎要因が否定された場合に卵管閉塞が疑われます。また、ミソプロストール製剤が精子に悪影響を与える報告や、検査をせずに全頭治療を行うと受胎率が変わらなかった報告があり、治療を行う時期や馬は慎重に選ぶ必要があります。しかし卵管閉塞に対する治療は不受胎馬の重要な治療法の1つであるため、度重なる不受胎に悩まれている方がいらっしゃいましたらお近くの獣医師にご相談ください。



・Current Therapy in Equine Reproductionより



・人工授精用カテーテルを使用した方法